

学力調査を基にした調査結果として、子どもの学力と保護者の経済力に相関関係があると新聞に載っていました。勉強を頑張れば、家庭の経済力を問わず将来が開けると思っ学校に通ってきた私たちの世代には、何か納得のいかな結果に思われます。

戦後しばらくは、大学へ支払う学費はさほど高くなく、家庭が貧しくとも、勉学に精を出し、高い水準の教育を受けると、安定した就職ができました。しかし現在では、社会が豊かになり生活レベルが上がったため、高い水準の教育を受けるにも経済力が必要となってきたということなのでしょう。

子どもは保護者の経済力とは関係なく様々な可能性を持っています。ですから、保護者の経済力で子どもの将来が左右されるということとはとても残念なことです。格差の少ない社会になり、子どもがその能力を存分に伸ばせるようになるよう期待したいと思います。

しかし、現実に経済格差がある社会の中で、子どもの可能性を伸ばす方法はないものでしょうか？家庭での環境が大切という声を聞きます。小中学校では学校での勉強が基本です。それがきちんとできれば学力は伸びると言われています。学校での学びがきちんとで

「学びの環境」

きるような環境を、家庭で作ることが大切ということだそうです。子どもが毎日十分な睡眠をとり、朝食をとり、学校へ行き、心身共にいい状態で授業を受けられれば、勉強にも集中でき、学力も伸びるでしょう。ところが、夜更かしをして睡眠が不十分だったり、朝食をとれず空腹な状態では勉強にも身が入りません。その結果として、学力が十分に身につかなくなる可能性があります。子どもの生活リズムは家庭の生活リズムに左右されます。生活リズムを整え、いい状態で授業を受けられるようにするためには、家庭での取り組みがとても大切だと思います。

生まれもった可能性を子どもが花開かせることができるよう、大人はその環境を整備したいものだと思います。皆さんはいかが思われますか。

＊このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会

(☎ 880・6569) まで